

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871400226
法人名	医療法人青峰会
事業所名	アクティブライフ宇和
所在地	西予市宇和町卯之町5丁目233番地
自己評価作成日	平成23年1月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者さんのできる事を奪うことなく、一人一人の気持ちを考えながら、その人らしく生活していただける様に支援している。
外出・外泊後「お帰り」と出迎える心を持ち、第2の我が家になるよう、居心地の良さを提供していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ご家族と電話等で話すことが難しいような利用者は、職員がビデオレターを作成して、ご本人の近況を報告した事例もある。
旬の野菜や魚等を多く採り入れ、利用者の好みに合ったメニューになるよう、ユニット毎に献立を決めておられる。きざみ食やミキサー食の方には、職員が一皿ずつメニューを伝えておられた。時には、敷地内の桜の木の下で食事をしたり、おやつに、ドーナツを食べに出かけることもある。調査訪問時、ごぼうのささがきをされたり、食後にはご自分の食器を下膳したり、洗いやけをする利用者の様子もうかがえた。床の食べこぼし等は、利用者が毎食後、ほうきを使って掃いてくださっている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ宇和

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 笹田 智子

評価完了日 H23年 1月 9日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念について全職員で話し合い、見直しをし、H22年度より新しい理念を掲げ、それに基づいて実践している。	
			(外部評価) 事業所では、地域密着型サービス事業所としての目標を理念に盛り込むために、昨年5月に新しい理念を作成された。全職員で意見を出し合って「地域に開けた施設作りをし、その人らしい人生を共に考え、笑顔ある生活を送れるお手伝いをする」という理念を作成された。理念は、額に入れて玄関や居間等に掲示されていた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 食材の買い物は近所のスーパーを利用している。また、回覧板のやり取りをし、地区の行事(掃除・総会・敬老会・非常災害時訓練など)には積極的に参加している。地域の祭りの中には、必ず訪問していただいている。地域住民参加型の行事も開催している。	
			(外部評価) 8月に事業所で開催した「納涼祭」には、地域の方が回覧板や事業所前に貼ったポスターを見て10名ほど参加していただき、バザー等を楽しまれた。集会所で事業所主催の「介護教室」を行った時には、回覧板を見られた地域の方の参加があった。地域の方からは「体位変換の方法」等について質問も出され、職員がアドバイスをされた。「ためになった」と喜んでいただいたようだ。又、時には、ボランティアの訪問があり、日舞を披露して下さったり、夏休みには地域の中学生が来て、利用者とはふれ合う機会もある。	管理者は、地域の方に「ちょっと寄っていただけるような事業所」にしていきたいと考えておられる。近所の方や地域の方が事業所に足を運ぶきっかけ作り等も工夫して、取り組みをすすめていかれてほしい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 中学生の福祉体験実習の受け入れを行っている。また、集会所を借りて介護教室を開催している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 感染症などの情報を頂き、職員・入居者・面会者などへ予防のための取り組みを協力してもらっている。また、事故再発防止のアドバイスを頂き、参考に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、区長や民生委員にも参加していただき、ヒヤリハット事例を報告して事業所の取り組みを発表したり、行事等の報告をされている。会議への参加の意義についてご理解を得られにくい方もおられたが、会議の中で避難訓練を行ったり、介護教室に同席していただくことを重ね、事業所や認知症について理解等もすすみ、会議への参加の意義を感じていただけけるようになったようだ。</p>	<p>会議の案内等も工夫して、さらに地域のいろいろな立場の方や多くのご家族に参加していただけるような工夫をされてみてはどうだろうか。いろいろな方の意見や感想等をうかがうながら、事業所のサービスの向上に活かしていかれてほしい。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市の担当職員の方に運営推進会議へ参加してもらっていて、その時に事業所の実情等に関して報告している。また、毎月1回入退居状況の報告をし、その際に相談や情報交換も行っている。質問・苦情・事故などがあれば、その都度、報告・連絡・相談をしている。介護相談員の方の訪問も受け入れている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、事業所からのヒヤリハット事例についての報告に対して「次にどう防ぐかをしっかりと話し合い検討することが重要である」と意見をいただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) どうすれば身体拘束をせずに、安全で自由に過ごせるかを常に考え、話し合いケアにあたっている。</p> <p>(外部評価) スタッフ会時、管理者は、拘束に当たる事例を挙げて話をしながら職員の理解を深め、拘束のないケアが実践できるよう取り組もうとされている。現在、ご家族に了解を得た上で、ベッドからの転落防止のため、ベッド柵を使用している利用者がいる。</p>	<p>今後さらに、ベッド柵をしなくても済むようなケアについて工夫できることはないか、ご本人の立場に立って話し合いを続けていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内・外での研修に参加している。 虐待が見過ごされないよう職員同志で注意し合っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度については研修に参加し知っているが、ホーム入居者で必要な方がなく、活用はされていない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設長が丁寧に説明し、同意を得ている。 法改定や契約内容の変更があれば、説明文章を添えて同意を得るようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会や電話対応の際必ず近況報告をし、家族が職員と話しやすいようこちらから働きかけている。意見箱を玄関に設置している。契約時に相談窓口について説明している。家族からの意見に対し、スタッフ会等で話し合い対応し、家族に報告している。個別援助計画に家族の意見欄を設けている。入居者さんへは、日頃から気持ちを聞いたり、思いの理解に努め対応している。介護相談員の訪問もあり、意見を聞いてもらっている。 (外部評価) ご家族には、来訪時、職員から利用者の近況等を伝え、又、毎月、利用者個々の担当職員が手書きのお手紙で、ご本人の様子を報告されている。8月に行われた「家族会」を兼ねた「納涼祭」には、40名ほどのご家族の参加があり、利用者はご家族と一緒に食事等をしながら過ごされた。「入院が長くなるとホームに帰れるか」ということを心配に思うご家族もおられ、居室の確保ができる期間や待機者、法人介護施設等の説明を行い、ご家族と相談しながら、その後のことを決めていくこととお話された。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			管理者へは、個別の面談や日常的に意見を伝えることができる。また、法人課長が不定期に訪問し、職員から意見を聞いている。	
			(外部評価)	
			事業所では、職員が外部研修等で勉強したことや日々の気付きや提案等、ケアや業務に採り入れてみたいことは「まずやってみて、話し合う」ようにされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			資格取得を奨励し、有資格者には正職員登用制度がある。管理者は、職員の勤務実績を上司に報告しているが、給与にどの程度反映しているか分からない。また、元々の給与水準が低い。	
			(外部評価)	
			年2回能力開発カードの実施と管理者からの報告はしているが、職員1人1人の把握ができているとは思えない。法人で新入職員・中堅者・管理者研修と付帯施設の勉強会がある。法人外の研修情報提供と参加のためのフォローもされている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			年2回能力開発カードの実施と管理者からの報告はしているが、職員1人1人の把握ができているとは思えない。法人で新入職員・中堅者・管理者研修と付帯施設の勉強会がある。法人外の研修情報提供と参加のためのフォローもされている。	
			(外部評価)	
			法人内のグループホーム職員との交流がある。西予市のグループホーム合同研修会が開催され、参加している。福祉ボランティアの会で同業者との交流がある。継続した交流はもてていないが、その時々で情報交換をし、良いことは持ち帰り職員間で話しをしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			法人内のグループホーム職員との交流がある。西予市のグループホーム合同研修会が開催され、参加している。福祉ボランティアの会で同業者との交流がある。継続した交流はもてていないが、その時々で情報交換をし、良いことは持ち帰り職員間で話しをしている。	
			(外部評価)	
			法人内のグループホーム職員との交流がある。西予市のグループホーム合同研修会が開催され、参加している。福祉ボランティアの会で同業者との交流がある。継続した交流はもてていないが、その時々で情報交換をし、良いことは持ち帰り職員間で話しをしている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			たくさん声かけをし、ゆっくりと話しができるよう配慮している。話を傾聴し、その方の思いの理解に努め対応している。意思疎通の困難な方は、行動などで理解しようとしている。入居前は、事前訪問・事前見学を勧めて行っている。	
			(外部評価)	
			たくさん声かけをし、ゆっくりと話しができるよう配慮している。話を傾聴し、その方の思いの理解に努め対応している。意思疎通の困難な方は、行動などで理解しようとしている。入居前は、事前訪問・事前見学を勧めて行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時には、日常の近況報告を必ず行っている。契約時や面会時に何か要望がないか伺うようにしている。介護計画書の中にも、希望・要望が書き込めるようにしている。 家族・入居者の希望があれば、ホームでの生活を見ていただくために、家族の宿泊を了解している。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 生活歴・家族や本人の話し・医師の所見等から何が必要で求められているのかを見極める努力をし、対応している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の好み・能力に合わせて、生活上の仕事を分担していただいている。手伝いの際「ありがとう」の声かけをし、持ちつ持たれつの関係ができています。 季節行事や慣習について教わることもある。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 外出・外泊・病院受診など協力してもらっている。 面会時に近況報告を行っている。 壁新聞で日頃の様子の写真を張り出し、面会時にみてもらっている。 定期の報告に写真送付状を送付している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人・家族にかかりつけや行きつけを確認し、美容院・病院など決めている。 自宅が近所の方の面会もある。 (外部評価) ご自分の携帯電話を持ち、お好きな時ご家族や知人とお話される方がいる。遠くに住むご家族等から贈り物をいただいた際には、事業所よりお礼の電話をかけて、ご本人にも替わり、ご家族と話してできるようにサポートされている。又、ご家族と電話等で話すことが難しいような利用者は、職員がビデオレターを作成して、ご本人の近況を報告した事例もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 仲の良い関係や対立する関係を見極めて、必要な時だけ間に入り援助している。孤立することのないよう努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院になった場合も、居室の取り置き期間があり、ホームに戻りたいと希望があれば期間内の取り置きを行い、入院中の方を見舞ったり、病院とも連絡を取り合うようにしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いや要望を日頃から伺い、ケアプランに反映させている。思いを伝えられない方も、御家族の話や日頃の様子を見て求められていることや必要性を考え、話し合い検討している。 (外部評価) ご本人と「1対1」になる入浴時等に、ゆっくりとお話を聞いたり、会話の中から思いや意向の把握に努めておられる。	事業所では、4月からセンター方式を用いてアセスメントを行い、利用者個々の思いや意向の把握に努めていきたいと考えておられる。利用者個々から得た情報を蓄積したり職員間で共有し、介護計画に採り入れながら、さらにご本人の思いや意向に沿った生活の支援に向けて取り組んでいかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時や面会時に御家族から情報収集している。また、生活の中で本人からも伺うようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の生活の中で状態観察をし、変化があれば記録に残し、情報を共有している。また、スタッフ会でも状態変化に伴い話し合いをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月ごとにカンファレンスを行い、作成している。日常の中で発した意見・希望、面会時に聞いた要望、通院時のDrアドバイス・指示をふまえ作成している。	
			(外部評価) ご家族の来訪時や遠方のご家族には、電話で暮らしやケアへの希望をお聞きしている。介護計画書には、ご家族の意見欄を設けてあり、計画についてご意見をいただくようにされている。「何も使わず歩けるようになりたい」という希望がある利用者が、廊下で歩く練習を行っていた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録にケアプランを挿み、日々確認できるようにしている。介護記録に様子が分かるように気づき・対応を記入し、申し送っている。	
			(外部評価)	
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ご家族による対応が難しい場合や本人の心身の状態により、受診の援助をしている。それぞれの主治医との連携も行い、対応している。医療連携体制をとっており、週1回の看護師の訪問により、アドバイスを受けている。また、急変時にも対応できるようにしている。	
			(外部評価)	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 依頼をし、ボランティアの訪問、消防署協力による避難訓練及び指導に来て頂いている。近くのスーパーへ入居者の方と一緒にいる。週2回パン屋に来てもらい、好きなパンを選んでもらっている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に担当医の希望を伺い、対応している。症状に合わせて、適切な医療機関の受診ができるように支援している。	
			(外部評価) 協力医が月2回往診してください。以前からのかかりつけ医を受診される方は、可能な限りご家族に付き添いをお願いされている。歯の治療が苦手な利用者の受診時には、ご本人が安心・安全に治療してもらえるようご家族と職員が付き添われている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 医療連携看護師に状態を毎日報告し、必要時に電話で相談、確認が必要であれば訪問してもらっている。また、週1回の定期訪問時に相談・アドバイスを受けている。終末期の対応も可能。かかりつけ病院の看護師にも相談しながら対応している。	
			(外部評価) 職員が面会し、医師や看護師・ご家族から状態について情報を得て退院に向けて備えている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 職員が面会し、医師や看護師・ご家族から状態について情報を得て退院に向けて備えている。	
			(外部評価) 重度化してきた場合には、本人・家族・主治医などと必要に応じて相談し、今後の方向について決めている。また、ホームで対応可能な内容についても話を理解を得ている。余命宣告を受け、終末期に入られた時点で同意書を交わし、家族・医師・看護師との話し合いをくり返し、不安の解消と具体的な支援を決定している。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化してきた場合には、本人・家族・主治医などと必要に応じて相談し、今後の方向について決めている。また、ホームで対応可能な内容についても話を理解を得ている。余命宣告を受け、終末期に入られた時点で同意書を交わし、家族・医師・看護師との話し合いをくり返し、不安の解消と具体的な支援を決定している。	
			(外部評価) 事業所では、入居時に事業所の示す「医療連携の指針」をもとに、事業所での看取り支援について説明して、ご家族の意向をお聞きしているが、入居の時点では「まだ考えられない」というご家族が多いようである。終末期、職員は利用者の体をささって痛みが和らぐように努める等、ご本人が「安らかに逝く」ことができるよう、支援内容を全職員で話し合うようにされている。又、管理者は、ご家族・職員の看取りに対する精神面のケアにも取り組まれており「愛する人との別れの準備」という冊子を用意して、職員は全員読み、ご家族にも時期を見て目を通していただけるよう渡しておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルがある。また、経験の浅い職員に対しては研修参加をさせたり指導も行っている。 連絡体制については、スタッフ会等で話し、いつでも確認できるように目に付くところへ張り出している。 救命救急講習も順次受講しているが、実際に行うとなると自信が持てない職員がいる。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害対策マニュアルを作成し、いつでも見られるようにしている。 スタッフ会で誘導・通報・応急手当等の分担について話し、自分の役割を把握している。 定期的に避難訓練を行い、入居者の方にも避難経路の確認してもらっている。 運営推進会議を利用し、メンバーさんにも協力してもらい避難訓練を実施した。 (外部評価) 7月にスプリンクラーを設置された。運営推進会議の中で避難訓練を実施され、区長と民生委員には、駐車場に避難した利用者の見守りをお願いされた。安全に避難できる時間の目標を「7分」とされていたが、2階からの避難については、少々時間を要し、次回の課題とされていた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩であるという気持ちを忘れず接している。 記録などの取り扱いにも注意している。 居室への入室の際は必ず本人の了解を得ている。 言葉遣いに気をつけ、不適切な言動があれば職員同士で注意しあっている。 (外部評価) 昨年の外部評価を受け、言葉遣いや職員間の会話の配慮等について再点検された。施設長は、毎月のスタッフ会で接遇について話題に上げ、気づいたことを話し合ったり、声のトーンやご本人や周りの方に配慮して、声かけ等を行うように話されている。調査訪問時、職員は、利用者のペースに合わせながら穏やかに声をかけておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 着る服・食べたいもの・見たいものなど本人から聞き取り対応している。 本人の思いや希望がくみとれるよう心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 掃除・体操・食事・入浴の時間は大体決まっているが、その 時にするかしないかは本人の意思にまかせている。できるだけ 利用者の要望に沿った暮らしができるよう援助している。 突然の外出(買い物・散髪など)希望も出来る限り対応して いるが、無理な場合は日を改めて対応している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 自分で服を選んでもらったり、髪型を決めたり出来るよう援助 している。爪切りや髭剃りはこちらが気をつけ行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえ・調理・配膳・下膳・食器洗いなど一緒に行ってい る。また、好みも把握し、個別に調理して美味しく食べて頂け るように工夫している。 (外部評価) 旬の野菜や魚等を多く採り入れ、利用者の好みに合ったメ ニューになるよう、ユニット毎に献立を決めておられる。きざ み食やミキサー食の方には、職員が一皿ずつメニューを伝 えておられた。時には、敷地内の桜の木の下で食事をしたり、 おやつに、ドーナツを食べに出かけることもある。調査訪 問時、ごぼうのささがきをされたり、食後にはご自分の食器を 下膳したり、洗いやけをする利用者の様子もうかがえた。床 の食べこぼし等は、利用者が毎食後、ほうきを使って掃いて くださっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) こまめに水分補給を促している。ポカリスエットも常備して提 供している。 それぞれに合わせた、食事量・形態で介助も必要に応じ 行っている。 食事量のチェックをして、状態に応じて栄養補助食品で対 応している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 起床時と毎食後、口腔ケアを援助している。 その人その人の能力に応じ、足りない部分を介助している。 粘膜ブラシで口腔内のマッサージを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 日中は、全ての方がトイレで排泄できるように援助している。個々の排泄パターンを確認し、必要な援助を行っている。 (外部評価) ご家族の中には、排泄の失敗を心配される方もおられるが、パットを使用することによる皮膚トラブルもあることを踏まえてご家族に説明して、日中は出来る限り布パンツで過ごしていただけるよう支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取を促し、食事を消化しやすい形態にしたり、ヤクルト・ヨーグルトの提供をしている。毎日、運動を取り入れている。又、下剤も便の状態に合わせて調節している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間帯や回数は目安として決めているが、本人の希望があれば、希望を最優先して対応している。 (外部評価) 基本的に午後からが入浴時間となっているが、午前中に入浴を希望する方もおられ、個々に合わせて支援されている。入浴を好まれる方は、毎日入る方もおられ、洗髪時、顔にお湯などがかかるのが不快な方には、シャンプーハットを使用して、嫌な思いをせずに洗髪できるようにされている。調査訪問時、手押し車にご自分の着替えやタオルを入れて、浴室に向かう利用者の様子が見られた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 室内の換気、温度調節に気をつけている。起床・就床時間はそれぞれに合わせている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬情報をいつでも見られる所へファイルし置き、確認するようにしている。 内服薬変更時には、申し送り・日誌の記入し、薬の内容により、その後の状態観察を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活で、一人ひとりの力を活かした役割分担がされている。 月1回、レクを計画し実施。個別外出・散歩など気分転換・楽しみにつながる支援を行っているが、充分とはいえない。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 寒さ・暑さが厳しい時期はなかなか外へ出られないが、気候の良い時は買い物、近所の散歩へ良く出かける。 畑での収穫・手入れなど一緒に行くこともある。 西予市社協主催の「オイネ号」の参加を働きかけている。 お墓参りなどの希望は家族に伝え、協力してもらっている。 したいこと・行きたい所などの要望は少ない。	
			(外部評価) お天気のよい日は、事業所の周辺を散歩されている。ご近所の庭の花壇を見せていただくこともある。近所のスーパーに買い物に行かれたり、季節の花を見にドライブされることもある。3月には、利用者全員が参加して、歴史文化博物館に外出して「おひなさま」等の展示物を見て楽しまれた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族の了解を得て、日用品の購入や美容院・病院の支払をされる方もいる。 ほとんどの方は管理が困難なため手持ちでお金を持っておられず、支払う場面はない。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をしたり、手紙の返事を書いたりする援助をしている。 贈り物が届いたらお礼の電話を必ずかけるようにしている。 手紙が出せない方は、ビデオレターを作って送ることもある。 年賀状は毎年書いて貰う様にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> 季節の花を時々飾っている。 月行事に関連した飾りをしている。 TVの音や外からの光・室温などは入居者に聞いて調節している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> ユニットの入り口には、職員の顔写真と名前が大きく貼られてあった。壁に貼ってある行事の写真等も見やすいように大き目にされていた。居間には、テレビを囲むようにソファが配置されており、利用者は、お気に入りの場所で過ごされていた。午後になり、窓から日差しが入ってくると、カーテンを閉め調節されていた。ソファで隣に座る利用者の服のボタンをかけてあげる利用者の様子が見えかけた。2階ユニットの踊り場には、ソファが置かれてあり、利用者同士が日向ぼっこをしながら、お話しなどされる場になっている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> 家族会で撮った家族写真などを飾っている。 本人の馴染みのものを持ってきてもらっている。 面会があれば自室で過ごされるが、その他は、ほとんどホールで過ごされる。	<p>(外部評価)</p> ベットとタンスは、事業所で備え付けてある。ご家族の写真を飾られている方や、お正月の書初めの作品を壁に貼ってある方もおられた。枕元に鈴やタンバリンがあり、夜間、職員を呼ぶ時に鳴らすようである。	ポータブルトイレの設置の仕方やパット等の介護用品の整理等、利用者のプライバシーにも配慮して居室の環境作りに取り組まれてほしい。ご本人やご家族とも相談しながら、ご本人にとって居心地の良い居室となるよう工夫してほしい。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> 工夫することで出来るようになることは、改善している。 自分のことはなるべく自分でしてもらい、困っていることは一緒に行くことで安心して活動できるように支援している。 入居者さんによって対応方法に変化が必要なことを日々の業務の中で話し合っている。		